



人間形成の教育に全生涯を捧げた学園の創立者 須賀 栄子

1873(明治6)年、群馬県館林の藩士 須賀正直の六女として生まれる。生後一カ月に母を、また3歳で父も亡くしたため、明治天皇の皇女養育の女官を務めていた長姉寿賀が郷里に戻り、高度な教育と厳格な躰のもと幼少時代を送った。

寿賀の栃木県尋常中学校(現在の県立宇都宮高校)の赴任に伴い、宇都宮に移住。市内で唯一の東小学校に入学し初等科および中等科を首席で通し、それぞれ卒業式には答辞を読んだ。同年、県に一枚だけ設置された尋常中学校の女子部に入学し、1888(明治21)年に卒業。翌年、名門の東京神田の大成学館に入学し、英語・数学・物理ほか当時の最先端の教育を受けた。

修業後は姉の運営する「宇都宮裁縫専修所」に勤めた後、1900(明治33)年に弱冠27歳で、本学園の礎となる県内初の私立女子の教育機関「共和裁縫教習所」を開設した。以来35年間教育に全精力を捧げ、1934(昭和9)年に天皇単独拝謁日の直前に、脳溢血で急逝した。

「明るく豊かな国家社会の基礎は健全な家庭の建設にある。」という信念のもと、若い女性たちに世界平和に通じる真の使命を自覚させ、共和の精神で実践に徹する堅実で気品高い女子教育に力を尽くした。

戦災から復興し学園を発展させた2代目理事長・宇都宮短期大学創立者 須賀 友正

須賀学園が誕生した翌年の1901(明治34)年に生まれる。生涯独身であった叔母・栄子の甥で養子となった。県立宇都宮中学校(現在の宇都宮高校)を首席で卒業後、蔵前高等工業学校(現在の東京工業大学)を1923(大正12)年に卒業。当時、トップ商社であった高田商会に入社して、ドイツに赴任することが決まっていたが、関東大震災のため宇都宮に引き揚げ、県立宇都宮工業学校(現在の宇都宮工業高校)の教員となる。ピアノが得意であり、数学・物理を教える傍ら、式典での君が代演奏や宇工創立5周年記念に制定された校歌の作曲などにも活躍した。

栄子急逝後、33歳の若さで本校の校長に就任。和裁や礼法の教師であった妻・華子とともに教壇に立ち、学園を継承・発展させた。

1946(昭和21)年には、全国屈指の工業高校である県立足利工業学校校長(現在の足利工業高校)を兼任し、戦後の同校の再建の大任も果たした。また、栃木県公安委員長を6期に亘りつとめた。1971(昭和46)年、勲三等瑞宝章を受章。1982(昭和57)年、逝去。

当時の生徒によれば、「古武士の面影の中にも、温かみをひめた友正校長先生」と記されている。



歴史を語る学校施設



共和裁縫女学校



創立40周年に講堂を新築(戦災で全焼)



戦災前の校舎前景(松が峰校地)

近年の学校施設の充実



ラーニング・コムモンズ教室



第3体育館



硬式野球場

INDEX

理事長あいさつ	01	在校生のことば	08
須賀学園のあゆみ	02	学園生活〈宇都宮短期大学附属中学校・高等学校〉	09
学園長インタビュー	03	学園生活〈宇都宮短期大学〉	11
卒業生のことば	05	学園生活〈宇都宮共和大学〉	12
教職員のことば	07	須賀学園 年表(2001~2020年)	13